

ひろしま WENET

広島市女性団体連絡会議 広報紙 第36号 2013年11月

目次

- 広島・大邱 女性団体交流会（報告） 1
- ヒロシマ平和の灯のつどい（報告） 1
- 福島市の女性団体が来広（報告） 2
- 日本女性会議〈男女共同参画〉2013 あなんに参加して（報告） 3
- 広島市女性団体連絡会議（ひろしまWENET）からのお知らせ 4

広島・大邱 女性団体交流会（報告）



5月4日、ひろしま WENET とゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）の共催により、韓国大邱広域市女性団体協議会との交流会を開催しました。

広島市姉妹・友好都市の日記念イベントに大邱広域市訪問団の一員として来広されたもので、まず、広島県民踊協会の皆さんによる民踊2曲で歓迎。大邱広域市女性団体連絡協議会会長の権英順さんが「今、両国の間には政治的に難しい問題もあるが、こういった私たち女性の交流が重要である。」と、在広島大韓民国総領事令夫人の金金龍さんが「広島にこのような女性団体があることは今まで知らなかった。今度からは気軽に訪ねてきてください。」と挨拶されました。在広島大韓民国総領事の辛亨根さんも飛び入りで参加されました。



大邱広域市女性団体協議会の皆さんは、朝鮮王朝時代の美しい民族衣装のファッションショーと「アリラン」「トラジ」を合唱されて会を盛り上げてくださり、お互い楽しく交流を深めました。最後は「アリラン」を歌いながら皆さんを見送りました。（報告：広報部 貴田月美）

ヒロシマ 平和の灯のつどい（報告）



原爆の日を前にした毎年7月31日に開催している「ヒロシマ平和の灯のつどい」は、今年、15回目を迎え、100人余りの市民が平和記念公園に集い、深い祈りをささげました。核廃絶への願いにもかかわらず、核兵器が存続している現在、広島に住む私たちが、平和への思いを発信し続け、世界中の人々にこの思いを届けなければなりません。

つどいでは、カザフスタンからの留学生が「平和の灯」から採火し、その火を参加者が持つろうそくに灯し、その明かりに核兵器廃絶の願いを込めながら原爆死者慰霊碑のまわりを静かに行進しました。

また、つどいに先立ち、参加者は、ピースボランティアを務める被爆者の説明を聞きながら平和記念公園内の碑を巡りました。（報告：学習部 澤野道子）

福島市の女性団体が来広（報告）

8月5日～7日、ふくしま市女性団体連絡協議会会長の阿部勢津子さんと副会長の小澤和枝さんが来広され、ひろしまWENETがお二人の広島での活動に協力しました。

同会は福島市内の16の女性団体で構成されている、ひろしまWENETと同じような団体です。昨年、「同会が“広島がどのようにして復興したのか知りたい”との趣旨で情報収集するため、広島訪問を強く希望している」と、福島市役所から広島市役所を経由してひろしまWENETに協力要請があったのをきっかけに交流が始まりました。昨年の8月6日に合わせた訪問を希望されていましたが、このとき既に市内の宿泊施設は満杯状態で、やむを得ず1年待って、今年の来広となったものです。

5日は、午後、旧日本銀行広島支店で、ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクトが招聘したカザフスタン・福島県の若者と交流し、写真家の土田ヒロミさんの講演に参加、土田さんの「フクシマ in 広島」の映像作品も鑑賞されました。そして、夕食会でカザフスタンと福島県の若者も交え、福島・カザフスタン・広島のそれぞれの立場から意見交換されました。



夕食会の様子

お二人は、カザフスタンの留学生との交流によって、初めて海外の被爆者のことを知ったとのことでした。また、「原発のことがなければヒロシマのことを何も知らないままだった。広島の被爆者が68年を経てまだ、苦しんでいる実態を感じた。」「フクシマは原発による風評被害、内部被ばくについて考えてゆかねばならない。原発問題について、女性団体連絡協議会として何ができるか。さらに、女性の視点を持った防災計画の必要性、避難されている人への手当て、食の安全対策などを訴えていかねばならない。継続しての交流も必要と感じている。」と話されていました。

6日は、平和記念式典参列のあと、嵐の中の母子像供養に参加して「原爆を許すまじ」を合唱されまし

た。その後、ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）センター長の信政ちえ子さんの案内により、平和記念資料館を見学されたほか、ゆいぽーとの概要について説明を受けられました。午後は、紙屋町のウエストプラザで、原爆の犠牲となった宝塚歌劇団出身の女優、園井恵子さんの半生を取り上げた朗読劇「私は芝居がしたいの」を鑑賞されました。

阿部さんは、この広島訪問の後に、地震で壊れた自宅の建て替えを予定されており、忙しい中での訪問でした。小澤さんは、研修旅行で外国へ旅立たれた直後に東日本大震災が発生し、なかなか日本に帰ってこられなかったそうです。おのおのが大きな被害を受けておられました。福島市はさまざまな対策を実施してきたものの、いまだに復興が進んでいないとのことで、「自分たちがこの状況（原発の被害）に置かれるまでヒロシマのことを知ろうともしていなかった。何も知らないと言ってもよいと思う。でも来て見て、少しは知ることができた。ぜひ福島のことも知って欲しい。」とのお二人の言葉には切実なものを感じました。原爆のことをはじめ、広島でのたくさんの思いと情報を福島へ持ち帰られたことと思います。

（報告：西田志都枝）

日本女性会議〈男女共同参画〉2013 あなんに参加して（報告）

10月11日～13日、徳島県阿南市で開催された日本女性会議に参加しました。当会議は、今年30周年を迎え、名称に「男女共同参画」という言葉が入っています。



実行委員長の渡辺純子さんと阿南市長の岩浅嘉仁さんの急病により、

徳島県知事の飯泉嘉門さんが2日間ずっと付きっきりで、大車輪の活躍をされていました。知事は、1日目の食育分科会でのパフォーマンス、とりわけ徳島産の作物・郷土料理・伝統芸能のPRに力を入れられていたほか、食育分科会のコーディネーターとしても絶妙で、徳島を一生懸命PRされる姿が印象的でした。

今回、徳島県と阿南市の皆さんからは、自分たちの祖先が伝えてきた味と伝統（阿波踊り・人形浄瑠璃）を大切に受け継ぎ、これを生きる糧とした商売と生きがい絶妙のバランスで両立し、暮らしの中に溶け込んでいると感じさせられました。特筆すべきは、阿波踊りと人形浄瑠璃を次世代へバトンタッチするため、地道な営みを感じさせる特設会場が街のなかにあったことです。

内閣府男女共同参画局長の佐村知子さんによる「日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題」についての基調報告では、平成26年度概算要求で①男性にとっての男女共同参画②子どもにとっての男女共同参画という、切り口を変えた2項目を掲げていることと、現状では男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針を掲げ、内閣府のホームページから備蓄チェックシートをダウンロードできるようにし、国全体で共通認識が持てるよう配慮していることが紹介されました。

記念講演は徳島県出身の料理研究家、浜内千波さんの「男女が織りなす食育」、日本女性会議30周年記念シンポジウムは「いきいきわくわく小さな町から新たなステージ～日本女性会議の30年を振り返り、そしてこれから～」と題して30代、40代のパネリストが活発に議論を展開されました。

男女共同参画活動では、当初「男女平等」といった分かりやすい目的が掲げられ活動してきた経緯がありますが、現在では、ワーク・ライフ・バランス、女性の起業、男性運動とジェンダー研究、医療・科学などの分野での女性への支援など、幅が広がってきたことを実感できました。そして、30代、40代とい

う世代がパネリストになっていることをみて、私たちの活動をどのように次の世代につなげていくか、そして、私たちの暮らす地域でどのような活動ができるか、踏ん張りどころだと感じました。

理想に掲げる「女性も男性もだれもがいいきと生活できる男女共同参画の社会」が実現すれば、超高齢化社会を生き抜くための「安心安全の地域づくり」につながるのだなあと思って、30周年記念シンポジウムを聞きました。

「日本女性会議 2007 ひろしま」が開催されてからもう7年たちました。準備期間を入れて9年になります。実行委員会で一緒に汗を流した仲間とつながる機会を再び持ちたいものです。(報告：井上佐智子)

広島市女性団体連絡会議 (ひろしまWENET) からのお知らせ

平成25年度 広島市女性団体連絡会議 役員紹介

役職名	団体名	氏名
会長	I 女性会議広島支部	貴田 月美
副会長	広島市公立保育園退職園長の会 (ももくさ会)	松本 恵和
副会長	一般財団法人広島市母子寡婦福祉連合会	柳田 裕美
書記	特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来	中嶋 典子
書記	2000+7・平和	横光 美里
会計	広島市地域女性団体連絡協議会	林 敬子
会計	広島市公立保育園退職園長の会 (ももくさ会)	保井 智子
監事	安芸コスモスソントクラブ	小畠 知恵子
監事	広島市地域女性団体連絡協議会	吉岡 恭子
啓発部会長	アルコ・デ・ヒロシマ	山本 紀子
学習部会長	安芸コスモスソントクラブ	澤野 道子
広報部会長	広島市未来を考える女性の会	藤永 雅子

会員団体の新役員紹介

一般財団法人広島市
母子寡婦福祉連合会
会長 宮崎 暁美

新任です。よろしくお
願いします。

本会は、64年の歴史
を持ちますが、時代とと
もにニーズも変わり、近
年“ひとり親家庭”のさ
まざまな課題に取り組ん
でおります。

今年度から母子家庭・
父子家庭の就業支援・生
活支援を総合的に応援い
たします。

リンゴ狩り、野球観戦
など、親子で楽しんでお
ります。

DV防止セミナー

開催日：2014年2月15日(土) 場所：ゆいぽーと (広島市男女共同参画推進センター)

テーマ：「こどもが体験するDV」

コーディネーター 安田女子大学名誉教授 臨床心理士 川瀬 啓子 さん
シンポジスト 広島国際大学医療福祉学部教授 下西 さや子さん
臨床心理士 スクールカウンセラー 坂本 真理子さん
広島市児童相談所相談課長 林 義雄 さん
当事者の方



前回のDV防止セミナーの様様

2014国際女性デーひろしま

日時：2014年3月1日(土) 2日(日) 12:30~ 場所：ゆいぽーと (広島市男女共同参画推進センター)

テーマ：「原子力災害から3年 福島の子どもたちは… ~食と未来を考える~」 ※日時が3月2日に変更になりました

問合せ：ゆいぽーと (中区大手町五丁目) TEL 082-248-3320 FAX 082-248-4476

休館日 月曜日、祝日 (月曜日の場合は直後の休日でない日)、12月29日~1月3日

WENET ニュース第36号 2013年11月

発行者 広島市女性団体連絡会議 (広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 貴田 月美